

Report from the EDGE

ディスレクシア (Dyslexia) とは……………

知的に問題がなく、聴覚、視覚の知覚的機能は正常なのに、読み書きに関して特徴のあるつまずきや学習の困難を示す症状のことをいいます。

EDGE は……………

ディスレクシアの正しい認識の普及と教育的な支援を目的とした特定非営利活動法人 (NPO) として、2001年10月に認証・設立され、活動しています。

日本財団助成金、独立行政法人福祉医療機構助成金 文責：藤堂栄子

2009年度、エッジは日本財団と(独)福祉医療機構から助成金をいただき、LSA(学習支援員)育成事業とディスレクシアの若者の就労支援事業に取り組みます。

1-エッジでは2005年から独自のプログラムを組み、東京都の港区でLSA育成事業をローカルライセンスとして開始しました。これまでに7期にわたり200名の受講修了者を出しています。また港区からの委託を受け、区立の小中学校へLSAの派遣をしています。昨年度末で55名の対象児童に対して70名以上のLSAがかかわりました。この仕組みとLSAがかかわることの効果については文部科学省から実践研究を委嘱されました。

本年度は日本財団の助成のもと、この取り組みを地方へも「技術移転」すべく、名古屋、宮崎、明石、川越の4都市で地元の団体と連携して取り組みをいたします。

2-エッジではDX会(成人したディスレクシアを持つ人の会)を二カ月に一回開催しています。その中で自ら活動をして就労や起業している人がいます。ディスレクシアの若者は読み書きの困難さがあるがために本来の

能力を自分でも認識することが困難であると同時に、十分に発揮する機会を奪われています。また、本当にやりたいことに巡り合うまでに時間がかかります。

本年度は(独)福祉医療機構の助成を受け、ディスレクシアを持つ若者たち、支援者、ハローワークなどの現場の方たちとワークショップを中心に自分のやりたいこと、自分の能力に気づき、経験を共有し、理解を深め、最終的にはすぐに役に立つ具体的な就労への手引きを作成します。

目次

- P1-4 助成金事業
- P5 キッズ&ティーンズ
- P6 新刊本：ディスレクシアでも大丈夫
- P7 エッジの販売物
- P8 愛をはこぶ人キャンペーン、ホームページリニューアル、寄付金の御礼

あなたの手にとる一冊が、子どもたちに大きな未来、そして愛を与えます。

TD-30751

マッケンジー・ソープ
～愛をはこぶカレンダー～

店頭希望小売価格
608×425mm・7枚 1470円(税込)

ディスレクシアを乗り越え、作品を通し「希望・愛・喜び」を伝えているマッケンジー・ソープ。色鮮やかな色調と、ストーリーを感じさせる独特の世界が、見る人の心に優しさを与えてくれます。このカレンダーは、『愛をはこぶ人キャンペーン』を通し、売り上げの一部を寄付します。

2010年版
カレンダー
完成!



〒116-0012 東京都荒川区東尾久8-32-1 株式会社トーダグ TD開発推進部 TEL 03(6859)1906 FAX 03(6859)1916

ハローワークの取組

文責：柴田 章弘

2009年2月25日、DX会の精鋭5名とエッジスタッフ2名で、ハローワーク品川・六本木ジョブパークを訪れ、取組の様子を見学しました。ディスレクシア当事者が該当するのは「障害者手帳等をお持ちの方の職業相談」のコーナーでした。事前に予約なしに、訪問したにもかかわらず、担当の男性が別室を用意して、丁寧にハローワークの使い方を説明してくれました。話によると障害者コーナーには、ほとんどが障害者手帳を持った人々が相談に訪れ、発達障害の人が来るのは月に1人ぐらいだそうです。手帳のない人には普通の仕事を紹介しています。とてもディスレクシア当事者が支援を受けられる体制ではありません。これは困ったことだと内心焦ってしまいました。一通りの説明を受けた後、こちらからディスレクシア当事者は普通に見えても、「書類を書くのが苦手」「マニュアルを読むのが困難」「数字を正確に暗記できない」等という困難は持っていても、他の機能には支障がないことを説明しました。お互いに意見交換しているうちに、「外見は普通でも、小さなことに困難があり、少しの支援で能力を発揮できる」人の存在を理解していただけたようでした。まだまだハローワークにも啓発活動は必要です。



「ディスレクシアの成人の就労支援事業」に助成金

文責：柴田 章弘

独立行政法人福祉医療機構から「ディスレクシアの成人の就労支援事業」で今回の助成金をいただいたことは、正に「柵から牡丹餅」と言う表現が一番、当たっています。DX会の参加者から「就労」用手引きの必要性が指摘されていました。文字数も少なく、イラストや写真で簡単に説明された冊子か、CDがあれば便利です。

会員の中にはイラストレーター、映像作家、ライターもいるので、方針さえ固まれば、実現出来ると確信していました。しかし酒の上での雑談は、だれも本気にしませんでした。昨年10月に助成金を申請したときも、ほぼ諦めていました。ところが、突然、採用の通知が届き、今後一年間、半分冗談から始まった夢の事業に取り組むことになりました。

事業はワークショップ6回、ワーキンググループ4回、実行委員会（有識者）3回、発表会1回の企画があり、一ヶ月に一回、日曜日の午後集まって行います。最後に求職者用と雇用者用の二種類の手引きを作成する予

定です。6回行われるワークショップの各回が手引きの各章になっていて、全部で6章の冊子にまとめられます。それを紙媒体とともに、ホームページに公開します。さらに、映像化してDVDで残し、参加者の声をインターネットラジオで配信します。

この事業に係わる人々は三つのグループに分けられます。実行委員（有識者）、当事者、事務局です。実行委員は就労事業にこれまでかかわってきたNPO、教育、ハローワーク、企業の方々をお願いいたしました。当事者は成人ディスレクシアである人々で男性4人、女性1人になっていただきました。事務局はNPO法人EDGE関係者を中心に構成されています。そしてカメラマンが1名加わります。手引きの内容は次の6章です。

- 第1章 自分発見
- 第2章 特性→仕事探し
- 第3章 伝える（履歴書／自己アピール等）

第4章 就職活動の仕方／障害者手帳

第5章 企業訪問セミナー

第6章 就労後（法律情報と対応の仕方）

約1年間かけて、ディスレクシアの成人のために役立つ手引きを作るためにスタッフ一同、奮闘の日々が続きます。皆さまどうぞ期待您的。

<http://www.wam.go.jp/wam/>

成人ディスレクシア奮闘記

文責：柴田 章弘

最近、DX会の会員の中から就労に対する相談が増えています。数多くの就職情報は世の中にあふれているのに、ディスレクシア当事者に対するものは少ないのが現状です。たまたま、DX会の会員で、お二人の男性が新しく職を得ることが出来ました。ここで、お二人を紹介いたしましょう。Fさんは大学新卒で、得意の植物関係の知識を生かして、食品関係の会社に就職を決めました。もう一人は亀松陽二（仮名）さんです。DX会設立のときから係わっていた重臣で、一年間の就職活動後

に、障害者施設の介助員になりました。お二人とも、ディスレクシアを理解してくれそうな企業や施設をホームページで探し、応募したそうです。そして、堂々とディスレクシアであることを面接に述べて、相手に理解してもらってから、就労しました。例え、書きやすいペンがあっても、ディスレクシア当事者はメモ、一つとるのに苦労します。欠点を直すことに心を砕くより、自分の得意な面を売物にするほうが就職に結びついたようでした。お二人の声はインターネットラジオで聴くことができます。

http://blog.livedoor.jp/npo_edge/archives/cat_50033715.html

http://www.voiceblog.jp/dx_station/

第23回 DX会報告

文責：柴田 章弘

4月4日（土）、第23回DX会は13人（男9名、女4名）の出席で、地域活動室で行われました。外でお花見をして、リラックスした後、会場を移しました。DX会が独立行政法人福祉医療機構から助成金をいただき、一年間、「就労問題」と取り組むという大きなニュースをお知らせして、例会開始となりました。2月に実施したハローワーク訪問の参加者が感想を述べる形で会は進められました。熱い思いでハローワークを訪れただけに、その報告には迫力がありました。参加者の疲れが見えたところで、休みを入れて、「①今回の討論を聞きながら、感じたこと。②他に今、思っていること」という題で二つのうちの一つを選択して、クレヨンを使用して、描いてもらうことにしました。

予想通り、半分の出席者が今回の主題とは関係ないことを考えていたようでした。発表後の拍手にも少数の人々以外、和やかな笑顔がありませんでした。「だれかになにか支援してもらおう」ではなく「自分で、自分の生

きる方向」を見つける。この方針で、三人の会員が自分自身で新たな進路を見つけてくれたことを忘れないように。今回のワークショップは「やる気を起こさせる」にならなかったことを反省しております。



文科省

平成19年、20年と二年かけて文部科学省の委嘱を受けたLSA(学習支援員)の制度と効果について行った実践研究の報告書がまとまりました。

東京都港区と協働で平成15年から取り組んでいる事業です。エッジが通常学級内における発達障害を持つ児童生徒を中心に教育ニーズに対応する支援員の育成、学校内での活用のため、それぞれの児童生徒のニーズに合わせた対応が出来るよう体制を組み、人選をして派遣しています。

支援員には子どもたちの10年後の笑顔を合言葉に子どものニーズに合わせた支援を心がけるように育成しています。

一年目の中間報告書ではコミュニケーションと連携がキーワードであるとあげました。二年目の報告書ではより深くケーススタディーを通して研究をしました。其々のケースが背景も状況も学校も違うので一般化はできませんが、ほとんどのケースで約2年で状況が改善して、当初のニーズは解決しています。

今後は他の地域へ普及を目指しています。せっかく出ている学習支援員用の予算をその目的のために使ってほしいと思います。また、その際に是非、きちんと研修を受けて適切な支援が出来るよう色々な教育委員会に働地域のグループでかけその受け皿になれるようなプログラムを現在模索中です。

学習支援員(LSA)講座「夏の陣」

港区個別支援室

お待たせしました。評判の港区の学習支援員育成講座のエッセンスをまとめた5日間の講座を8月に開催いたします。

NPO法人エッジでは港区と協働でこれまで200名の学習支援員を養成し、3年間で延べ150名以上の児童生徒に支援を行ってきました。文部科学省からも委嘱を

受け効果を測ってきましたが、ほとんどのケースで効果が見られています。

本講座は、「発達障害とは?」「子供たちが何に困っているのか、その原因は何か?」「どのような手助けをすればよいのか?」を学びます。すでに教育支援員をしている方も、興味がある方もご受講下さい。

【実施時期】

2009年8月24日(月)～8月28日(金)10～15時

【実施場所】

東京都港区浜松町2-3-20

港区立子ども家庭支援センター2階 地域活動室

【受講生の条件】

- (1)発達障害の支援及びLSAに関心を持っていること
- (2)上記講座に全て出席できること
- (3)高卒程度以上の学力を有し、健康であること

【定員】30人

【費用】30,000円

(港区LSA養成講座使用のテキスト付)

【申込】

港区個別支援室(下記連絡先)へ8月7日(金)までに、
①氏名(ふりがな) ②住所 ③電話番号 ④年齢 ⑤職業 ⑥応募動機(400字以上800字以内)をご連絡下さい。

定員を超えた場合には書類審査の上、受講者には受講案内を8月12日(水)までに送付します。

【講座内容】

発達障害を取り巻く環境、発達障害とは、早期発見の手引き、LDとは、LD疑似体験、作業療法、実践的指導法、ソーシャル・スキル・トレーニング、発達障害の理解と心の健康支援、当事者の声、LSA制度の仕組み、LSA体験談 など



三遊亭楽麻呂さんの落語を聞いて

渡辺和美

発達障害啓発週間のイベントとして4月4日、初めて三遊亭楽麻呂さんの落語を聞いた。

いつもの地域学習室には高座がしつらえてあり、子どもから大人までの参加者は靴を脱ぎ、フロアの好きな場所に座ってなごやかな空気。さて、落語の中の江戸文化、いろいろな役割を持った長屋や町内の人々が登場する。亭主を尻に敷く女房、肝っ玉のすわらないご亭主、まぬけで調子ばっすれの与太郎、ご隠居さんに八つつあん、熊さん。読み書きそろばんでできなかつたって、おてんとさまは毎日のぼる、の

んきでおおらかな時間がいい!楽麻呂さんの師匠はご存知三遊亭円楽さん。

師匠のペットの九官鳥の愉快なエピソードや与太郎の出すなぞなぞの噺に会場は、どっと大爆笑。お題拝借の即興小咄も美しいオチだった。さすが!与太郎は本質を見ている、落語にはなくてはならぬ存在。一見頭が足りなさそうにみえてもホントはすごい!上質なユーモアで権力もひらりとかわす落語の世界、笑いはくらしのゆとりですね。

子供たちのための夏のデイキャンプ

夏休み、外部からの講師をお招きして2つのワークショップの開催を予定しております。内容は以下の通りです。

理科実験教室

講師：株式会社 IBM 社会貢献部の方々

内容：理科実験教室

日にち：8月18日(火)

時間：10時～15時(予定)



絵画のワークショップ

講師：武蔵野美術大学 川本雅子先生

内容：大きな一枚の用紙に子供たちが思いっきり絵を描いていく。(詳しい内容はまだ未定ですので、後日お問い合わせください。)

日にち：8月20日(木)

時間：10時～15時(予定)

皆様のご参加をお待ちしておりますので、詳しい内容につきましては、担当の木村までお問い合わせください。

9月クラブ会員募集

4月からキッズ&ティーンズクラブでは居場所や仲間作り、やる気や自信をつけて行くことを目的に活動しています。

その中で学習にとって不可欠な各自のラーニング・スタイルを知り、それにあったスキルを長い目で身に付けていけるようにいたします。

いつから参加いただいても大丈夫なシステムにしていますので、ご利用下さい。

日本語系(火)と英語系(木)に開催しています。小学生のグループと中学生以上のグループがあります。

若干名定員に空きがありますので、9月からの参加を募集しています。

曜 日：火(日本語系)、木(英語系)

時間：小学生(午後5:00～6:00)、
中学生以上(6:30～7:30)

定 員：各グループ6名

場 所：地域活動室(港区子ども支援センター2階)
http://blog.livedoor.jp/npo_edge/archives/cat_50031945.html

費 用：入会金 10,000円

入会前相談料：10,000円

参 加 費：10,000円/4回

DX会キッズ&ティーンズクラブ
〒105-0013 東京都港区浜松町2-3-20

港区子ども家庭支援センター2階 個別支援室内
電話&FAX 03-5401-1199

e-mail minatolsa@yahoo.co.jp 担当：木村綾子

ディスレクシアでも大丈夫

—読み書きの困難とすてきな可能性—

藤堂 栄子

1999年にディスレクシアという言葉に出会ってちょうど10年になる今年、読み書きが困難なはずの私とエッジを作るきっかけになった息子の視線を入れた本が出来上がりました。

この十年間、ディスレクシアという巨象の鼻、耳、しっぽ、足、牙を目隠したまま触ってはこれがディスレクシアか?と戸惑いつつやっとなんとなく全体像がつかめてきました。

また、言語に関わる困難さであるにもかかわらず、日本語という言語に特化した研究が非常に少ないことで欧米では日本語のディスレクシアはないという、間違った「常識」をいまだに信じている人が多くいます。そして、見た目はいたって健康であるので、困難さを理解されないことも大きな問題です。人口の10%はいるといわれているディスレクシアの事を非常に平坦な言葉で、本人たちの言葉で一生懸命書きました。

15歳で留学してはじめてディスレクシアかもしれ

ないと学校に指摘され、診断され、支援され、大学進学、大学院修了、資格取得そしてフランスで建築家としての活動を開始した息子の見方も加えました。ご一読いただき、立体的にディスレクシアの事を理解していただく一助になればと思います。

—親子のコラボレーションで、素晴らしい可能性を見事に示してくれる本—
(上野一彦先生 日本LD学会理事長)

この本は、親子による、お二人の貴重な体験の中から、自らの言葉で「ディスレクシア」を語り、その素晴らしい可能性のあり方を示す、わが国における最初の本です。

親子によってコラボレートされた本だからこそ、ディスレクシアの実感が強く深く伝わり、また、ディスレクシアを乗り越えるための知恵と工夫、そして、どのように能力が開花していくのかが見事に示されているのです。

★速報：村上春樹氏の「1Q84」の主人公の女子高生はディスレクシアです。



本体1600円+税 A5判・160頁

ディスレクシアでも大丈夫!

読み書きの困難とすてきな可能性

藤堂 栄子 著

(NPO法人エッジ代表)

親子のコラボレーションで、
すばらしい可能性を
見事に示してくれる本

上野一彦先生 (日本LD学会 理事長)

新刊
好評発売中!

- 1章 読み書きの困難について
- 2章 読み書き以外の困難と得意なこと
- 3章 ライフステージにそって
—どう対応すればいいの—
- 4章 息子の成長—誕生から就職まで
- 5章 僕がイギリスで受けた支援

ぶどう社 東京都千代田区神田小川町 3-5-4-905 TEL 03-5283-7544 FAX 03-3295-5211
ホームページ www.budousha.co.jp ★全国書店、各ネット書店で発売中/お急ぎの方は当社へ(送料無料)

学習支援員のためのガイドブック 特別支援教育 実践テキスト

「能力を引き出し伸ばす支援」が1冊のテキストになりました。

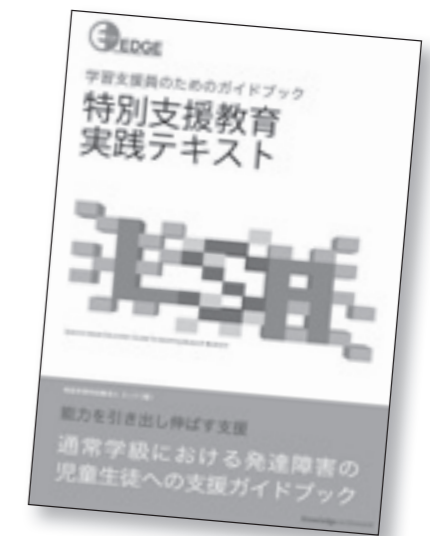
本書は、学習障害を抱え授業になじめない子どもたちを担任教師と協力してサポートする学習支援員(LSA:ラーニング・サポート・アシスタント)のためのガイドブックです。

学習支援員には、熱意はもちろん必要ですが、子どもたちが何に困っているのか、その原因は何か、どのような手助けをすればよいのか、知識と実務訓練が必要です。本書は、このような学習支援員を養成するためのテキストとして活用いただけます。

<本書の内容>

- 第1章 港区の特別支援教育
- 第2章 特別支援教育とは
- 第3章 発達障害の理解とその対応
- 第4章 早期発見の手立て
- 第5章 LD 疑似体験
- 第6章 時代による環境の変化とコミュニケーション
- 第7章 ソーシャルスキルトレーニング
- 第8章 医療面からの配慮
- 第9章 教育の現場 ~就学前~
- 第10章 教育の現場 ~小・中学校~

- 第11章 教育の現場 ~都立高校~
- 第12章 発達障害のある人の高等教育と就労
- 第13章 困難の理解とその支援策
- 第14章 補助教材支援ツールの紹介
- 第15章 問題行動の理解と支援
- 第16章 今後の展望と課題
- 付 録 さまざまな支援ツールの紹介



著 : NPO法人エッジ

価格 : 2700円+税

ISBN : 978-4-903687-07-11

発行 : ナレッジオンデマンド

※本書のタイトルや内容は予告なく変更される場合がございます。ご了承ください。

愛をはこぶ人キャンペーンから

新ポストカード発売決定

かわいらしいソープ氏のポストカード12枚セット(1000円)も、新しい絵がわりリニューアル。ぜひ一度、お手に取って、ご覧ください。2010年度版カレンダー

(価格1400円(税別)、送料600円)も販売開始されました。お申し込みは Mail:mail@aiwohakobu.jp FAX 03-6240-0671



愛をはこぶ人キャンペーン

マッケンジー・ソープさんのご支援の下に「ディスレクシアの啓発と支援」を目的に活動してきました愛をはこぶ人キャンペーンも6年目に入りました。5月の末に発売された村上春樹氏の最新書下ろし長編小説『1Q84』の中でも「ディスレクシア」という言葉と概念がとりあげられています。発売1週間で100万部に届くベストセラーであることから今後非常に多くの人たちの知ることとなります。村上春樹氏が「ディスレクシア」に関心を持ったことに関してもEDGEと愛をはこぶ人キャンペーンの活動もその一助になっていることと思われまます。そういう意味では、私たちの活動の責任

は一層重いものになり、正確な知識の普及と明るく前向きな希望と意志をひとりでも多くの人たちに伝えていかなければならないと決意を新たにしております。新しい段階に入りました「愛をはこぶ人キャンペーン」へのみなさまのご支援とご参加をお願いいたします。

昨年大好評でしたマッケンジー・ソープ・カレンダー2010年版とソープ氏の最新作を追加した新しいポストカードセットも販売を開始しました。たくさんの方の善意の協力の下で完成された素敵な商品です。私たちの活動の原資を生み出しますので、本年もみなさまのご支援を心よりお願いいたします。

文責：藪巧一

最近の活動紹介

2/27	JICE会議	20人
2/28	博報賞教育フォーラム	200人
3/1	大田区特別支援教育シンポジウム	40人
3/1-2	視察(明石リボンネット)	5人
3/5	トライボットヒアリング	2人
3/7,14	トライボットモニター	2人
3/18	英語講座	20人
3/26	LSAフォローアップ研修	27人
3/30	リヴォルヴセミナー	22人
4/4	落語の会/DX会	41人/14人
4/6	WAMミーティング第1回	4人
4/21	富士通デザイン モニター	1人
4/29	第1回WAMワーキンググループ	9人
5/15	国立秩父学園に講演会	75人
5/21	自閉症協会AS部会にて講演	50人
5/27	神宮前ロータリーにて講演	50人

今後の予定

6/7	DX会/第2回WAMワーキンググループ
6/26	リーダー研修:講演
6/27	文科省実践研究発表会
6/28	第1回WAMワークショップ
7/8-21	ソープ氏来日
7/26	第2回WAMワークショップ
8/2	DX会
8/18、20	K&Tデイキャンプ
8/24-28	LSA夏期集中講座
8/29-30	第3、4回WAMワークショップ(夏合宿)
9/12-13	日本財団:川越
9/19-20	日本財団:宮崎
10/3-4	日本財団:明石
10/4	DX会
10/5	第3回WAMワーキンググループ
10/10-12	日本LD学会
10/24-25	日本財団:名古屋

東京インターナショナル ラーニングコミュニティ様

ご寄付、ありがとうございました。

ホームページリニューアル

NPOエッジは、「ディスレクシア」の啓蒙と活動支援を2001年より開始し8年目を迎えます。エッジの啓蒙/支援活動が、より多くの方々に理解していただき、またより多くの方にご支援いただける目的で、2008年11月にホームページのリニューアルを実施しました。

従来のホームページは三本立て(旧ホームページ・ブログ・愛を運ぶひととキャンペーン)で、情報提供がバラバラで、タイムリーに必要な情報が提供出来ておりませんでした。

今回のホームページは①~③に注力し、情報提供の一元化と便宜性の向上を図りました。

- ①最新ホット情報の提供:月2回以上の情報更新を行う。
- ②役立つ情報の提供:「ディスレクシア活動」DX会の連絡/報告を定期的に行う。
- ③利用者の便宜性向上:PDFファイルをダウンロードして、自宅端末で印刷が出来ます。

今後は、ホームページへのアクセス分析を行い、アクセス件数が多いメニューの情報充実、またマルチメディアを活用してより理解しやすいホームページづくりをめざします。

大澤兆雄

Report from the EDGE - 第20号 -

2009年6月25日発行

発行者 NPO法人EDGE

発行責任者 藤堂栄子

東京都港区浜松町1-20-2 村瀬ビル3F

Tel. 03-6240-0670・0672

Fax.03-6240-0671

編集 NPO法人EDGE 事務局 柴田章弘

印刷 株式会社 信英堂

<http://www.npo-edge.jp>

http://blog.livedoor.jp/npo_edge/

E-mail: edgewebinfo@npo-edge.jp